

## 第4回三重県文化審議会 議事概要

日 時：平成26年8月5日（火） 午後3時から午後5時

場 所：三重県総合博物館レクチャールーム

出席者：委員12名（秋吉委員、浅田委員、岸川委員、小林委員、田村委員、千種委員、豊田委員、中村委員、速水委員、山下委員、吉田委員、吉本委員）

（知事あいさつ）

- ・ 4月19日に三重県総合博物館（MieMu）がオープンして4ヶ月弱になる。6月1日には入館者数が10万人を超え、8月3日現在で197千人となり、まもなく20万人を超えるなど順調な滑り出しである。今後もこの博物館を拠点にネットワークや展示内容の充実に取り組んでいきたいので、引き続きご指導をお願いしたい。
- ・ 方針においては県が広域自治体として行うべき大きな取組の一つとして「人材の育成」を掲げていただいております。方針策定後には具体的な取組内容を検討していくが、人材の育成にあたっては「創造力・想像力」をいかに育てていくかが大事である。一朝一夕にはできない難しい課題だとは思いますが、これまでの審議会での議論を聞いて重要だと認識したところである。アインシュタインも「想像力は知識よりも大切だ。知識には限界がある。想像力は世界を包み込む」といっており、人材の育成にあたっては、想像力を育むことが非常に大切だと思う。
- ・ これまで皆さまからいただいた貴重なご意見については、答申案に盛り込まれているものも、盛り込まれていないものもあるが、盛り込まれていないものも含めて、しっかり心に刻んで文化政策に推進していきたいので、本日もよろしくお願いしたい。

審議事項「新しいみえの文化振興方針（仮称）」答申案について

「答申にあたって」（p1）～「みえの文化の特長」（p9）

（委員）

- ・ p1の「答申にあたって」の4行目から9行目はまさにその通りだと思う。
- ・ p7の「2 交流による発展」の東海道的について新たに追加された部分は、かえってわかりにくくなったように思う。「古くから都とのつながりが深く、また、東西の結節点として」という文章を削除し、もし必要なら当該段落の最後に記述すればどうか。

議長（会長）が委員に諮り、削除することで了承。

（委員）

- ・ 基本理念としてはこれまでの審議会の議論をふまえて誠実に書かれており受け入れやすい。ただ、指針として具体的な内容が書かれているか否か。例えば、p4

に「世界の文化交流のハブとなる」とあるが、これに関して、実現可能か否かは別にして、審議会委員の意見をふまえた取組が盛り込まれていれば分かりやすい。もう少し、施策の具体性が見えるように整理した方が望ましいのではないか。

(委員)

- ・ 県議会から、10年先を見据えた方針なので、具体的なことを書き込むのはどうかという意見があったとのことだが、レベル感はあるにしても、やはり今後この方針が具体的にどうなっていくのかという点が気になる。事務局としてはどうお考えか。

(会長)

- ・ 方針の中にはさまざまな取組を包摂しているが、まずは大きな方向性を示しておいて、その具現化については外部の有識者に助言をいただきながら検討をしていくという考えから、p16( 方針の推進にあたって )の最後の2行に記述が加えられている。事務局としてはどうか。

(事務局)

- ・ この方針は、あくまで指針として、10年後の大きな姿を示していただいて、具体的な取組内容は、今後、「みえ県民力ビジョン・行動計画」との整合を図りながら検討していきたい。
- ・ ただ、5つの施策の方向性については、できるものから取り組んでいく必要があるとも考えており、「人材の育成」については、27年度から予算化して、具体化していきたい。また、施策の進捗や内容については、外部の方から評価や助言をいただきたいと考えている。

(委員)

- ・ p4～5に「経済情勢の変化」について記述があるが、内容がわかりにくい。おそらくp6の「県の財政状況」にリンクしてくるのだと思うが、この節の位置づけはどんなものか。

(会長)

- ・ 確かにリーマンショック以降のことを記述しているので、少し長くなりすぎたかもしれない。

(委員)

- ・ この節の記述は、p6の「県の財政状況」につながらないとあまり意味がないと思われる。

(副会長)

- ・ 経済情勢の悪化や今後の人口減少など非常に苦しい状況ではあるが、私はこの節の最後の段落の記述（景気は持ち直しに転じている）という箇所に意味があると思って読んだ。

(委員)

- ・ 財政状況が良かろうと悪かろうと、県としては、クリエイティビティに注目して文化振興に取り組んでいくという姿勢が大事である。この節は、もう少し簡潔に記述してもいいかもしれない。

(会長)

- ・ 事務局としてはどうか。

(事務局)

- ・ 会長、副会長とご相談のうえ、文案を調整したい。

(委員)

- ・ p 6 の「文化交流ゾーン」の記述について、この部分は検討部会でも議論したが、いろいろな経緯があって、3つの施設が一体的な経営体にはならないということ、また、県立図書館についてはパブリックコメントでも独立でという意見が多かったが、それらもふまえてもう少し詳しく記述すべきではないか。
- ・ 文化振興にあたっては、県だけではなく、市町や団体、個人との連携が必要であると思われる。その意味では、p16の「2 さまざまな主体との連携」にも「市町」を入れていただければどうか。

(会長)

- ・ 「文化交流ゾーン」の記述については、私ももう少し記述があった方がよいと思い、参考資料として添付する形とした。事務局としてはどうか。

(事務局)

- ・ 参考資料として検討部会報告書を添付するとともに、その主要な部分は、p14、15にも盛り込んだところである。できれば、ここはこのような文章としておいて、詳しくはp14、15や参考資料をご参照いただく形としたい。

(副会長)

- ・ もともと県方針中間案では具体的なことが書かれていたが、県議会からのご意見もあり、このような形になっている。部会委員としては、ご不満もあるとは思う

が、致し方ないかなと思う。

議長（会長）が発言した委員に確認し、了承

（委員）

- ・ p7の「1 日本の精神文化の源流 - 伊勢と熊野」の4段落目の最後に「人びとはその果てに悟りと不思議な力を得ることができた」という文章があるが、行政の作成する文章に「不思議な」という言葉を使うのはどうかと思う。「新たな」に変えた方がいいのではないか。

（委員）

- ・ どちらでもいいのではないかと。あとは好みで決めればどうか。確かに「新たな」の方が文章としてきれいだが、「不思議」が出てくるのが三重県らしいとは思っている。

（委員）

- ・ 「不思議」というのはマイナスの力もあればプラスの力もある。曖昧模糊とした言葉だと思える。

（会長）

- ・ 知事はどうか。

（知事）

- ・ この言葉は委員の方から頂いたものか。（事務局：そうではない）  
そうでなければ、「新たな」でよいのではないかと。

（委員）

- ・ p4の「経済情勢の変化」だが、「国の文化政策の動向」や「県の財政状況」とは異なり、だからどうなのかということが記述されていない。  
こういう状況だからこそ、「創造性」や「センス」が必要だということが記述されていないのが、よくないのではないかと。

（会長）

- ・ 確かにそういう記述があれば、後にもつながるように思われるので、その辺りも含めて文案を検討したい。

審議事項「新しいみえの文化振興方針（仮称）」答申案について

「 施策の実施に係る留意点」（p9）～「 方針の推進にあたって」（p16）

(委員)

- ・ 私は人口減少問題もそれほど悲観していない。地域の持っている良いところを伸ばせば、雰囲気が変わってくると思っている。そういう意味で、答申案 p10 に「長所の伸張」という記述があってよかったと思う。

(会長)

- ・ 先ほど 委員から市町との連携の必要性について意見があったが、p11の「4県の役割とさまざまな主体との関係等」に市町との関係について記述があり、きちんと書かれていると思うが。

(委員)

- ・ 現在も三重県文化振興事業団が中心となり、市町の文化施設の運営について連携を進めていただいているので、今後、もっと広めていきたいと考えている。

(委員)

- ・ p16の「 方針の推進にあたって」について、市町との関係も声かけだけでは動かない。ここに書かないとしても、具体的にどのようなことを考えているのか、事務局にお伺いしたい。
- ・ 連携という言葉がよく出てくるが、担当者間で話し合うことも連携といえれば連携。それとも何か連携のための仕組みを作るのか。他の自治体でも一番難しいのがこのところだと考える。
- ・ p16の「3 取組に係る評価と改善」で県の現行のシステムを活用して評価を行うという箇所が気になった。現在の施策を見てもそうだが、どうしても文化という狭い分野にとどまってしまう。他部局や他の主体とどのような連携が取られていたかわからない。その意味では評価の仕組みについては、仮でもいいので何か道筋を記述してほしい。
- ・ 文化行政の担当者が一人しかいない市町も多く、年に一回、文化行政担当者の連絡会議を開催する程度では市町の文化施策を実質的に進められないのが現状である。市町との連携についても、制度的なことはある程度初めに書いておかないと、後はお任せというわけにはいかないのではないか。

(事務局)

- ・ 評価の仕組みについては、内部でも新しい評価軸を作っていくべきかどうか議論した。また、新たな連携の仕組みを作らないと、県がどのように変わったのかわかりにくいと思われるので、その辺りも含めて外部の有識者の会議を開催し、評価や助言をいただきたい。

(知事)

- ・ 審議会の答申であり、審議会で議論されていないことを書き込むのはいかなものかと思う面もあるので、他部局との連携や有識者会議については、皆さまのご意見をふまえて文案を検討したい。
- ・ 市町との連携については、昨年度市町への意向調査を行い、その結果は審議会にもご報告したが、それを参考資料として添付すれば、もう少し明確になろうかと思う。市町からは人材の育成や情報発信について県との連携を求める意見があった。

(副会長)

- ・ 庁内の連携という点については、検討部会でも議論し、報告書のp20に記述したように「(仮)経営会議」を設けて連携を図ることを明確にしたところである。

(会長)

- ・ 検討部会ではそのように整理しているが、どうか。

(委員)

- ・ 狭義の文化振興であれば、そのような対応で問題ないと思うが、産業や観光との連携を図るということであれば、他部局の職員に具体的に、幅広く文化のことを考え、施策に生かしてもらわないといけないので、相当にハードルは高いはず。だからもう少し具体的に書いてほしい。

(委員)

- ・ 方針の対象範囲について幅広く捉えると謳っているのであれば、5つの方向性にもう一つ、柱として連携についての記述を加えるという方法もあるのではないか。
- ・ 「基本目標と施策の方向性」のところにもう少しインパクトのある記述がほしい。例えば国際的な視点の取組を書けないか。世界を巡回して伊勢と熊野に係る企画展を実施するというぐらいの目標を立てられるといいのだが。当方針の計画期間は10年なので最初の5年で伊勢を、次の5年で熊野をとった形で、例えばメトロポリタン美術館で企画展を行う。そのようなシンボリックな取組をどこかに一つ書けないか。
- ・ p15の「3 重点施策」の記述に、「当面、「【方向性1】人材の育成」と【方向性5】文化の拠点機能の強化」を重点施策とし」との記述があるが、当面は行うが、あとは行わないとも読める。例えば「中でも」といった表現に修正した方がいいのではないか。
- ・ 答申を受けた後の宿題かと思うが、方針に基づく取組の工程表を作成してほしい。3年後には、すべての小学5年生の児童が年1回、総合文化センターで本物の文

化芸術にふれる機会を提供するなど具体的な形で。

- ・ 文化の担い手は県民であるという主旨の言葉が2箇所ほど出てくる。全くその通りだが、何か県として消極的な印象を受ける。県もパートナーとして文化振興施策を進めていくといった書き方ができないか。

(会長)

- ・ これまで連携の必要性についていくつかご意見があったが、やはり県の施策の中で、しっかり文化施策を位置づけていくことが大切なのだろうと思う。

(委員)

- ・ 他の自治体の事例だが、こういった会議に産業や観光の担当者に参加してもらくと、いかにもやりたくなさそうな雰囲気、もうすでにこういう取組をしていますという発言が多い。庁内関係課の担当で会議を開催し、1年後には必ず文化関連の事業を立ち上げるといったように具体的に書けないか。

(会長)

- ・ 方向性を一つ追加すると全体の構成が崩れるので、p16の「2 さまざまな主体との連携」にもう少し具体的に書き込めればと思う。

(委員)

- ・ 伊勢と熊野が前半に出てくるが、三重県にとって観光はインパクトがある。高速道路が延伸し、最近では和歌山県からの観光入り込み客も多い。三重県にとっては、観光や産業は大事な柱であり、みえの文化を考える上で、観光や産業は切り離せないというぐらいの整理が必要ではないか。
- ・ この方針は10年先を見据えたものだが、何か夢のある、明るいものが打ち出せればいいのだが。

(委員)

- ・ p16の「2 さまざまな主体との連携」では、連携する主体がみんな均等に書かれている。どこが中心になって、どことどこが連携するのかわかりにくい。
- ・ 指針というものはこういうものかなとも思うが、「人をつくる」「地域を元気にする」「世界の文化交流のハブになる」ということと、三重県が独自性を生かしてどう関わっていくのか、具体的に書いた方がいいのではないか。

(会長)

- ・ 連携については、これまでのご意見をふまえてもう少し踏み込んで整理したい。
- ・ 海外に対する情報発信の件は、p13の方向性4(情報の受発信)のところを、海

外に向けて、さまざまな手段で情報発信していくという主旨の文章にしてはどうかと思う。

(事務局)

- ・ 一つ確認だが、産業や観光との連携については、p14の方向性3(新たな価値の創出)のところをもう少し書き込むという整理ではどうか。

(会長)

- ・ 連携についてはいくつかご意見があったが、産業や観光の件は、他部局との連携をどこに、どうやって書き込むかという問題ではないかと思う。

(委員)

- ・ 私も会長のおっしゃった整理に賛成である。あまり具体的に書き込むのもどうかと思う。

(会長)

- ・ 要は県の施策の中で文化振興施策に対する注目度を高めていくこと。事務局で整理の仕方を検討してほしい。

(委員)

- ・ 自治体の職員の皆さんは、よく、私は文化のことはわからない、文化とは関係がないとおっしゃるが、行政において文化は重要な概念であることを示すのがこの方針の目的であると思う。
- ・ 他部局との連携については、そういうことを職員の皆さんにわかってもらえるよう、「文化概念の意識改革をしながら」といった表現が入れられないか。

(副会長)

- ・ 常々、文化行政に対する税金の投入を「出費」ではなく「投資」と捉えられないかと思っているが、どうか。

(委員)

- ・ 文化は長期的な成果が見えにくいことから、「出費」という捉え方になってしまうが、「創造産業」や「創造都市」という概念は、副会長がおっしゃったような考え方だと思う。行政が文化はお金がかかるし面倒だというイメージを持つこと自体時代遅れなのではないだろうか。「投資」という概念を前面に出してもいいかもしれない。



(委員)

- ・ 確か国の第3次基本方針でも、助成金とは、市場経済が成り立たない、足りない部分を補うためのものであるという考え方から、投資であるという考え方にすでに切り替わっている。
- ・ また、そういった観点からは文化以外の領域でどのようなリターンがあるのかということが重要である。例えば劇場の運営だけではリターンがなくても、アウトリーチ活動を実施する中で、勉強やスポーツが苦手な児童がダンスを体験して輝き、やる気になったなど、文化に対する投資がお金に換えられない大きなリターンを生むと考えるのがこれからの流れかと思う。

(会長)

- ・ 最初に経済の議論をしたときも、今のような話が出ていたと思うが、どうも経済情勢の説明だけになってしまった感じがある。どこまで対応できるかはわからないが、念頭において文案を検討したい。

(委員)

- ・ 他部局との連携の件については、まずは、本家本元の文化振興担当部局が意識を持っていただくことが重要なので、他部局に働きかけ、説得する力を持っていただきたいと思う。どこの自治体でもその辺りが難しいところである。

(会長)

- ・ 有識者の会議のところは、もう少し明確に書きたいと思う。

(委員)

- ・ 文化を数値だけで評価するのはいかななものかというのが大方の文化関係者の思いだが、目標として入館者数や入館料など金額や数字を置かないと曖昧模糊とした評価になってしまうのではないか。

(会長)

- ・ 確かに文化の評価はなかなか難しい。検討は必要だと思うが、ご意見として承りたい。

(知事コメント)

- ・ 本日も、答申を取りまとめる最後の審議会とは思えないような活発な意見交換をしていただき、感謝申し上げたい。
- ・ p16の方針の推進の仕組みのところについて、本日のご意見をふまえてなるべく具体的な記述になるよう検討したい。

- ・ 前半の経済や財政の記述は少し暗いので、前向きに明るく、県が主体的に取り組むという姿勢が見えるようにとのご意見もいただいた。
- ・ p16の方針の推進に係る仕組みについては、方針の対象範囲に関するp6の記述や本日のご意見もふまえて検討したい。
- ・ 工程表や数値目標に関するご意見については、すでに県全体として「みえ県民力ビジョン・行動計画」やPDCAの仕組みがあるので、それらとの整合性も考えながら文案を整理したい。
- ・ 方針の具現化に向けて有識者会議を立ち上げることになれば、またお手伝いを願うことになるかと思うので、今後ともご指導、ご協力をお願いしたい。

(以上)